



吉田かよこ

平成 26 年冬号

【住所】：〒151-0071 東京都渋谷区本町 6-38-6-306

☎03-3373-7167 / FAX03-3373-7165

✉kayoko@ia7.itkeeper.ne.jp

吉田かよこ プロフィール

1962 (昭和 37) 年 9 月 生まれ

小学校 2 年まで仙台白百合学園小学校で学ぶ

父の転勤で、東京に戻り小学校 3 年より桐朋小学校に編入

桐朋女子中学校・高等学校卒業

日本大学工学部数学科卒業

平成元年税理士資格を取得

現在、渋谷区議会議員 吉田佳代子税理士事務所の所長でもある



衆議院議員選挙結果

平成 26 年 12 月 14 日 (日) 投開票の衆議院議員選挙の結果、民主党のながつま昭前衆議院議員が小選挙区で当選を果たしました。ご支援いただきました皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の選挙では、私も含めた民主党渋谷区議団の 4 名の区議会議員もながつま昭前衆議院議員と行動を共にし、一緒に活動をしてまいりましたので、今回の選挙結果は、喜びもひとしおです。

渋谷区と中野区が第 7 区小選挙区でした。

ながつま前衆議院議員は、12 月 2 日 (火) の公示日から最終日の 13 日 (土) の間、渋谷区には 3、4、5、7、8、10、11、12、13 日と連日のように入り、政策をうったえてまいりました。

街頭演説をしている間、たくさんの方に声をかけていただき激励をいただきました。

今後も国政と区政の連携をし、皆様のお役にたてるよう、しっかりと仕事をしてまいります。

18 歳選挙権について



たびたび選挙制度改革が議論されますが、その中で、選挙権を 18 歳以上にしようという考え方があります。

何故、選挙権を 20 歳から 18 歳に引き下げることが提案されているかと申しますと、今の日本の人口構成と投票率に歪みがあるからです。

年代別の人口及び投票率は、下記の通りとなります。

人口 20 代 1270 万人、30 代 1630 万人、40 代 1780 万人、50 代 1530 万人、60 代 1830 万人、70 以上 2310 万人

投票率 20 代 37.89%、30 代 50.10%、40 代 59.38%、50 代 68.02%、60 代 74.95%、70 歳以上 63.30%

一番投票率の高い 60 代と一番投票率の低い 20 代では、投票数の割合が 10 対 3.5 であり、3 倍もの投票数の差があります。

そのため、選挙権を 18 歳以上にし、且つ 18 歳以上 30 歳未満の方の投票率を高めることで、ようやく、10 対 10 になります。

その結果、今まで投票に行く方々の政策に力を入れてきた政治家も、若い世代の投票数に占める割合が増加すれば、若い世代の政策についてもしっかりと取り組まざるをえない状況にしようと言う考え方です。

私は、選挙のたびに、若い世代に投票に行きましようと呼びかけてきました。

1 票を投じることで、自分の未来と日本の未来を考えていただきたいからです。

1 票の格差について

1 票の格差がたびたび問題となります。

1 票の格差とは何か？

選挙区が人口で決められていないため、1 票の重みに差が出てしまうということです。

例えば、a 地区の人口が 20 人で、b 地区の人口が 5 人とします。各地区で一人ずつの議員が選出されるとすると、b 地区の票は a 地区の 4 倍の重みがあるということです。

日本でいま起こっていることは、地方から都市部への人口流出です。

仕事をするために多くの若い人達が都市部に集まってきます。

結果として、都市部の一票の重みが軽くなり、地方の一票が重くなる、一票の格差がうまれてしまいます。

中でも特に問題なのが、世代間格差です。

若い世代が仕事を求めて都市部へ流出するため、若い世代の影響力が小さくなってしまいます。その結果、地方に多く住んでいる高齢者寄りの政策が優先されるようになってしまいます。しかし、一方で地方の票が都市部の票よりも重いことについて、悪いことではない、と主張する人もいます。完全に人口によって選挙区が決められてしまうと、人口の少ない地方の人達の意見が通らなくなるという考え方があるからです。